

二尺許にて、踏壇石となし置けり。といふ事を載せたり。おもふに此は國民恐怖し、民害と成るゆゑ焼亡し給へるものならん。今金澤城内に住みける大蛇は、護城神にして人の妨害をなさず。故に國初以來無異にして住めるもの也。

○城中奇事

傳燈寺中興千岳和尚履歷書に云ふ。千岳諱宗切攝州難波之産奥村氏之子。濃州正傳寺賜紫惟天和尙之弟子。元和三年金澤下向。於鹽屋町德輝山大法寺創立住居。其節於城内伐梅木。自木迹猛火燃出。以前田出雲被命鎮火之傷。則述作呈上。而猛火止。寛永八年七月。於泉野寺町寺地拜領。一寺創立。號太白山寶勝寺。とあり。されば右梅木の奇事は、寛永八年以前の事なるべく、千岳禪師行實錄に則ち其の記事を載せたり。

金澤城中記事

金府城内有大梅樹。太守利常卿令伐之。後自此木之伐跡。夜々發出猛火。俾府中寺社之徒祈之。終不停。卿則以前田雲州。令命於千岳。岳作偈而書終。令貼木伐跡。忽猛火止。偈云。金兮木是木。錯道元來金尅木。不信問鬼谷先生。

柚人不殺花山木。

○本丸尾山堂宇遺址

金城隆盛私記に云ふ。金城以山尾之故曰尾山。一曰。曆應中一向宗門建道場於此地。諸民尊敬之。故稱御山云々。又有澤武貞金澤正極圖譜に云ふ。賀州石川郡御供田村の農翁土屋又三郎義休入道直心が、村巷老農夫の鄙言傳語を聞くに、其初め曆應・康永の頃、一向宗親鸞上人より三世覺如上人北國修行の時、此宗に歸依の土民多くして、小さき御堂を建立す。今本丸の地也と云ひ傳ふ。是より土民尊敬して尾山を御山と稱す。其れより以後、八世蓮如上人、長享の初め御山を城に取り立て、七里三河守を置く。是本城なりと云へり。或は云ふ。此佛堂をば、そのかみ尾山御堂或は金澤御堂とも呼べり。是即ち本源寺の本堂なりとぞ。といへり。按ずるに、越加記に載せたる天正四年八月廿一日加州賊魁蛭川新七郎以下連署本願寺への言上書に、爲御上使七里三河法橋御下國被成、御書並被加御袖判御一書之御條旨にも、御上使と成水魚之思互可致相談之由被仰下候。即金澤於御堂各致頂戴云々。と記載す。

○本丸居館主將

三州志來因概覽附錄に云ふ。曆應・康永の頃、本丸の地に小利を創立す。是其の濫觴なり。其の後長享二年富樫氏瀝瀝に依つて、賊魁共加賀郡若松庄に在りし一道場を引遷し、本源寺と號し、且兵革守防の爲め堡障を設け、江州山科より下間筑前頼善を呼び下して堡主となし、又文龜元年武佐祐乘を山科より下して御堂坊主と呼べり。とあり。又云ふ。曆應の頃本丸の地に小利を建て、長享二年に至つて下間筑前を此の本丸に置き、天正の初め七里三河、坪坂伯耆等、天正七年松永丹波居す。自註に云ふ。東本願寺末寺傳記に、延徳三年七里三河を下し、尾山城を取り立つ。七里本丸に居し、二丸に御堂を立て、看坊に祐乘、慶心を置く。七里大永四年に死する故に、坪坂伯耆下りて本丸に居す。伯耆天文十五年に死す。故に其の子新五郎之に代る。新五郎永祿十年に死する故に、下間壽實並に本多作内下り、天正八年迄城代たりとあり。景周按ずるに、右末寺傳記は、慶長十七年六月金澤鍛冶町常福寺祐念が假作也。又富樫勸智錄に、加州尾山城代として、大坂の顯如より下間壽實法橋・本

多作内を下し、加州四郡の下司富樫藏人・鎬木右衛門・窪田

大炊・堀才助・同宗兵衛國中の惣代。とあり。越加記には、尾山城主共一新納武藏守、其二赤座織部、其三坪坂伯耆、其四佐久間玄蕃。とあり。又同書に天正三年頃の城代が坪坂入道たる事、書札の寫を載せて明了也。又此の時の同職と見えて、川部左衛門次郎或は村井神九郎と坪坂と連名宛所の書ありと。又云ふ。加邦錄・金澤事跡錄及び有澤武貞金澤圖副記・享保十九年土屋義休よりの問書等に、長享の初め七里參河・平塚藤九郎・尾山城の繩張をなし、坪坂伯耆城代をなすといひ、又長享の初め尾山城を取り立て、本丸に七里參河、二・三丸に坪坂伯耆・三林善四郎等を置き、門跡より加州の目代として、一揆の黨を下知せしむ。とあり。東本願寺末寺傳記には、七里參河を延徳三年本山より下し、本丸に置く。とあり。然れども按ずるに、此の數説時代皆誤れり。七里參河等は天正の初めの人也。天正三年信長公越前へ出軍の時、七里は越前の中河内の堡を守る事、北陸七國志・加越圖評記に記す。又賊魁よりの書簡にて徵すべきものを越加記に載せたり。凡そ長享と天正とは粗、百